
悪魔な微笑には代償を

夢路 かなた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪魔な微笑には代償を

【Nコード】

N8949F

【作者名】

夢路 かなた

【あらすじ】

どんな願いも叶えてくれる何でも屋が存在した。そこに現れた今回のお客。彼女の願いと報酬とは？

当店の規則

- 1．一度受けたご依頼はけして取り消すことはありません。
- 2．何でも屋の元を訪れた時点で、それなりの報酬をいただきますことをご了承ください。
- 3．報酬は何でも屋で決めさせていただきます。
- 4．上記の3つ以外にも多々規約がありますのでご承知のうえでお越しください。

天使か悪魔かはお客様しだいです。

テーブルには二つ、入れたのココアが置かれており、淡い光に照らされた部屋を甘い香りが満たしている。置かれている二つの椅子には誰も座っていない。聞こえてくるのは丸い部屋を囲む先が全く見えない壁すべてにあるさまざまな時計の音だけ。数え切れないほどある時計の音は不思議な音色を奏でている。

「さて、そろそろかな。」

その壁の前に一人の少年が立っていた。黒いスーツに白いワイシャツ。頭には黒いハットをかぶっている。少年は首にかけている鎖の長い懐中時計を開いた。時計の針は2本ともくねくねとして先にとがった矢印がついている。しかしそれが指すはずの数字はひとつもない。ただ白いだけの上に黒い針だけがついているのだ。

少年は椅子の前に立ち、この部屋にたった一つだけある扉を見た。両開きのその扉には蔦が絡んだような細工が彫ってある。扉が開き、かすかな明かりが差し込んだ。

「いらつしやいませ。」

少年は微笑み、おびえた表情の少女に会釈した。

『ボランティア以外なんでもお受けいたします。

何でも屋

KANATA』

少年は目の前に座っている少女に名刺を渡した。

「他にはけしてお受けできない依頼もこなしてみせますよ。」

人のよさそうな笑顔でそう言い、少しぬるくなったココアを飲む。

少女は優しそうな少年を見て少し安心したような表情を見せる。

「さて、お客様のご依頼をお聞きかせ願いますでしょうか。」

少年がパチンと指を鳴らす。すると空中に黒い小さなノートと羽根ペンが現れた。それを手に取ると、啞然とした少女に、どうぞ。と促す。しかし少女は目の前のできことに言葉を発することができないように、固まったまま動かない。

「どうなさいました？」

少年が不思議そうな顔で少女を見る。少女はそんな少年になぜか恐怖を感じ、扉から入ってきたときのようなおびえた表情を見せた。

「……。ここまでいらして怖気づいたのですか。こちらとしてはかまいませんが契約はご存知ですよ。それで、逃げ帰りますか？」

少年はにっこりと微笑んだ。

「い、いえ。お願いします。」

少女は震えながらもうなずいた。

「はい。了解しました。」

明るく返事をし、ゆっくりと息を吐いた少女の言葉を待った。

「私の願いはただひとつ、もう二度と誰にも馬鹿にされないこと。いつも私はお荷物のような目で見られて、そんな目で見ると奴らみんな消えてしまえばいいと思った。いえ、けして欲しい。もう二度と会うことがないように。そして二度と私がそんな目で見られることがないようにして欲しい。お願いします。」

少女は顔をしかめ、手を白くなるほど握り締めながらいった。目線を下げていた少女は、少年が口を歪めたことに気づかなかった。

「そうですね。ご依頼内容は分かりました。それで、報酬のほうですが。」

お金はあまり無いですが何とかしますという少女に、少年はお金は無くてもかまいませんよと笑った。少女は不思議に思いながらでは何を？と聞いた。

「そうですね。お客様の魂で結構ですよ。」

少女は言われたことをすぐに理解できず、きよとした顔で少年を見た。

「まああまり高値で売れる品物ではないですが今回のご依頼はあまり手間のかかるものではないのでいいでしょう。それでは、」

一瞬だった。少女の視界は闇に覆われ、二度と光は届かない。崩れ落ちた身体は床に着く前に消えた。ただ薄暗く光るものだけが残された。

「身体は今回、返してあげましょう。まあ向こうの世界では自殺ということで片付けられるでしょうが。」

そういうと少年はまた指を鳴らした。今度は小さな黒い鳥がこが現れそこに少女の魂を入れる。

「ご依頼完了。これであなたを馬鹿にする人と会うことはないし、あなたを嫌な目で見た人はあなたの世界から消えたのですから。」

いや違うか、貴女が世界から消えたのですから。

そう言う少年は満足そうに微笑んだ。

さて、今度のお客様はどなたでしょうか。

そしてまた扉はゆっくり開かれる

さあ貴方の願いは何ですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8949f/>

悪魔な微笑には代償を

2011年1月14日03時37分発行